

やんばダムは有名である、話そうとするのはこの上流について。草津温泉は「酸」が強く中和したうえ放流している。万座温泉は鉄分が強いので川が赤茶けて川魚は住みにくい。西に浅間山が見える。ここは孀恋村だ。わが故郷。裏側は小諸ここでひとこと、といきたいが紙面がない。

草津や万座の川が合流する地点よりさらに上流は清流というべきだろう。水はきれいで冷たい川魚の種類はヤマメ、カジカの二種類しか覚えがない。この吾妻川はいくつかの支流に分かれて素足で入るととても冷たい。小学生のころ数人で川遊び、流れを一部堰き止め逃げ場を失ったカジカをつかまえる。6センチほどの頭でっかち食べるわけではないが、夢中でやった。

中学生になると生意気にヤマメ釣りをした。

はじめは父のお供でそのうち釣り竿をはらいさげてもらい見よう見まねでやった。餌はみみず、流れに流すだけなので浮きはつかわないで山吹の幹の中にある発砲スチロールのような中身を流れるテグスの目印とした。ヤマメは美味しい。釣ったら褒められた。

ヤマメ 17/4/4 Hidekuro



ハラハラと桜の花弁が散る。

4月15日花びらは緩やかな風に運ばれて散っているこの情景は春です春ですと歌っているように思えますが、みなさまはどう感じるのでしょうか。季節の変わり目。

年寄りの感じ方になると物思いにふけるなんてありません。そんなのはナンセンス、長い冬が終わりを告げ二度と寒い冬はこないという安心感がさきにたちます。その上夏鳥達の歌声がきこえるようになる。水鳥の殆どとヒヨドリも北に帰って行く。ヒヨドリは国境を越えない北海道までだそうだが、竜飛岬から北海道に渡るのだろうか。

本州にも北海道にもヒヨドリの渡りを隼（はやぶさ）が待ち構えているという。ヒヨドリも先刻ご存知、みんなで渡れば怖くないというので、100羽か200羽か団体ができたらスタートするそれも波間すれすれに飛んで隼の襲撃を避ける。ところが、隼の追撃が怖く群れから離れるものがいてこれが餌食になる。TVでやっていた。でも、居残りのヒヨドリもいるようだ、なにも危険を冒して行くことはないと思ってるのかな。本州だって餌はたくさんある。

極めて居心地がいい、ただ、真夏の暑さには閉口するがこれさえ我慢すればなかなかの天国だ。



ヒヨドリ

北帰行 17/4/10 Hidekuro